
乳幼児を持つ父親の46.6%が「隠れ育休」取得
理想の取得期間は30日間だが、現実には3日程度でギャップが浮き彫りに！

積極的に育児を楽しむ父親「イクメン」が増える一方で、厚生労働省が毎年発表する男性の育児休業取得率が伸び悩んでいることから、NPO 法人ファザーリング・ジャパン(東京都文京区、代表:安藤哲也)では、育児休業制度とは別に有給休暇などを利用して産後の妻のサポートや育児のための休日(以下「隠れ育休」)を取得する父親が多いのではないかとこの点に着目し、乳幼児を持つパパを対象に、「隠れ育休」調査を実施いたしました。調査概要は下記のとおり。

調査結果から、乳幼児を持つ父親の46.6%が「隠れ育休」を取得していましたが、取得期間は3日前後で半数を占め、一週間以内の取得で8割を超えたため短期間の取得であることがわかりました。ただし、子どもの数が増えるほど1週間以上取得する比率が増加しており、第2子・第3子が産まれると核家族では手が足りず、必然的に父親の育児参加を促すきっかけになっていると推測されます。

また、取得できなかった父親たちに取得したい期間を尋ねたところ、30日間が最多となったことから、実際の取得期間と理想の取得期間に大きなギャップがあることが明らかになりました。

【NPO 法人ファザーリング・ジャパン代表理事 安藤哲也】

調査結果から男性の育児参加意識の高まりはうかがえるが、育児休業制度の定着はまだまだのようだ。育休取得率を上げるには、欧州並みに経済的支援を厚くしたり、取得によってキャリアロスやマイナス評価が起きないこと、加えて職場の上司同僚の理解が必要。今後、企業は制度より風土改革に力を入れて欲しい

【「隠れ育休」調査の概要】

調査対象：1歳半以下の子をもつ20歳以上の男性

調査エリア：全国

調査方法：株式会社マクロミルによるインターネットリサーチ

調査期間：2011年06月23日(木)～2011年06月24日(金)

有効サンプル数：1030

調査の詳細は、男性の育休促進事業「さんきゅーパパプロジェクト」ホームページ

<http://www.fathering.jp/sankyu/pdf/kakureikukyu2.pdf> にて掲載

【本件に関するお問い合わせ先】

NPO 法人ファザーリング・ジャパン さんきゅーパパプロジェクトリーダー つかごし

住所：〒113-0021 東京都文京区本駒込 1 - 3 - 2 - 307

メール：info@fathering.jp

Tel：080-1213-5068